

〔論 文〕

## 短期大学生の社会福祉に対する意識調査

A Study on Junior College Students' Perceptions of Social Welfare

綾 部 誠

Ayabe Makoto

### 1. 問題意識

厚生労働省の試算によると、少子高齢化の影響もあり今後、日本では医療・福祉に携わる人材の不足がより深刻化することが確実視されている<sup>1</sup>。そのため政府は外国人、女性、高齢者の雇用促進を試みているが、人材の確保は年々、厳しさを増す一方である。

2020年度に大分県内の介護施設158法人を対象とした調査では、123法人（77.8%）で65歳以上の高齢者を従業員として採用をしているものの、勤務日数や勤務時間が短く、施設内業務が中心で、正規と同等の勤務を行っているのは約26%に留まっている<sup>2</sup>。外国人の雇用については別の調査が行われており、2022年度の時点で大分県内の491の法人のうち、94法人が既に受け入れており、58法人が受け入れを検討、135法人が受け入れに関心を示しているとされる<sup>3</sup>。しかし介護分野における外国人雇用では、受け入れに関する制度が複雑であること、受け入れに必要な費用が高いこと、コミュニケーションが不安であることなどの要因もあり、受け入れを希望していない事業所も存在する<sup>4</sup>。

そのようななかで若者の福祉分野への就業が期待される一方で、就業者数は一向に伸びていない。大分県内には介護福祉士養成課程のある高等学校、介護職員初任者研修を受講できる高等学校が合わせて8校、介護福祉士養成施設が2校存在しているが、福祉系の学校（高校・専門学校・短期大学）に通う生徒・学生で、福祉・介護の職場に就職したい、または内定している割合は、2021年度で58.3%に留まっている。福祉・介護以外の仕事に就職したいと思っている生徒・学生は、自分には向いていない、給料などの労働条件が希望に合わない、仕事がきつそうであり福祉・介護にやりがいを感じられない、将来に夢が持てない仕事だと思うという項目が、選ばない理由の上位に入っている<sup>5</sup>。

<sup>1</sup> 厚生労働白書によると、2040年には医療・福祉分野に携わる人材は、96万人程度が不足するものと見込まれている。厚生労働省編（2022）「令和4年度厚生労働白書」日経印刷、p.7。

<sup>2</sup> 大分県社会福祉協議会大分県福祉人材センター（2020）「社会福祉施設等における人材確保に関する調査報告書」大分県社会福祉協議会、pp.22-24。

<sup>3</sup> 大分県社会福祉協議会施設団体支援部（2023）「令和4年度大分県外国人介護人材受入状況調査結果について」大分県社会福祉協議会、p.2。

<sup>4</sup> 大分県社会福祉協議会施設団体支援部（2023）、前掲書、p.11。

このように医療・福祉系学校における生徒・学生の社会福祉分野への就労および就業意識に関する調査は、これまでも幾つかは実施されてはいるものの、福祉を専門としない人文系の短期大学における学生の社会福祉ならびに同分野への就職に関する意識調査は、大分県内では実施された形跡はない。

## 2. 研究目的

そこで本稿では、大分県にある人文系の学科を有する公立短期大学の学生を対象にして、社会福祉に連関する意識調査を実施することにした。具体的には社会福祉分野に対するポジティブ・ネガティブなイメージ、福祉分野で改善されるべき点、情報発信の方法、就職時の選択基準、情報メディアの利用、就職時の意思決定などについてアンケートを実施することにした。そしてこれを短期大学であるために男女の数に差はあることは前提としつつも、男女別での傾向を分析し、意識の違いを捉えることにした。

この分析結果に基づいて、男女別で学生の社会福祉に対する考え方、社会福祉分野における就職意識を明らかにするとともに今後、若者が社会福祉に対して関心を高め、福祉分野への就職を促すための視点を検討することにした。

## 3. 先行研究

現在、介護業界の人材不足の大きな問題として挙げられるのが、少子高齢化である。大分県の65歳以上の人口比率は、2023年10月時点で34.2%と、全国の人口比率29.1%と比較すると高くなっている<sup>6</sup>。年少人口や生産年齢人口の減少傾向が続くなか、大分県内では8割弱の介護事業所で65歳以上の高齢者を従業員として雇用している<sup>7</sup>。介護分野における労働者不足は深刻で、採用計画を見直すにもまったく目途が立たないといった状態に直面している事業所も多い。

そのため近年は、積極的に外国人を雇用する事業所も増え、外国人労働者を受け入れている事業所は2023年度に全国で13.4%となっており、在留資格「介護」、特定技能1号、技能実習生として受け入れを進めている状態にあるが<sup>8</sup>、文化・言語・価値観等の違い、制度的な課題、費用の問題等もあり、全国で遍く受入れが進んでいるとは言い難い状況にある。

他方で大分県の介護職員の給与についてみると、平均年収は全国平均より20万円ほど低い水準であるが、九州地方の平均年収と比較すると、福岡県に次いで2位となってい

<sup>5</sup> 大分県社会福祉協議会福祉人材センター（2021）「福祉の仕事を目指す学生の意識調査報告書」大分県社会福祉協議会、pp.24-25。

<sup>6</sup> 大分県（2023）「大分県内の高齢者の状況」大分県（<https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2213031.pdf>）。

<sup>7</sup> 大分県社会福祉協議会福祉人材センター（2021）「令和2年度社会福祉施設における人材確保の関する調査報告書」大分県社会福祉協議会、p.22。

<sup>8</sup> 介護労働安定センター（2024）「令和5年度『介護労働実態調査』結果の概要について」（[https://www.kaigo-center.or.jp/content/files/report/2023\\_jittai\\_chousagaiyou.pdf](https://www.kaigo-center.or.jp/content/files/report/2023_jittai_chousagaiyou.pdf)）、p.16。

る。訪問介護従事者についても同様に全国平均と比較すると年間で20万円ほど低い水準ではあるものの、九州地方では沖縄に次いで2番目に高い平均年収となっている<sup>9</sup>。このような点から鑑みても、大分県の介護職員の給与水準は九州のなかでは高い方に位置しているとはいえ、全国的には低い水準のままである。

次に若者の福祉業界に対する意識についてであるが、介護福祉士養成施設で学ぶ学生を調査したのを見てみると、学生が介護職としての就労を忌避する要因として、賃金の低さや賃金水準が労働の内容に見合っていないことなどが挙げられている。他には労働条件の劣悪さ、勤務体制の不規則さ、休日の少なさへの不安、肉体的・精神的負担の心配などがあるとされる<sup>10</sup>。実際に介護業界の労働者を対象にした調査では、労働条件や仕事の負担に関する仕事の悩みとして「人手が足りない」が52.3%で最多であり、次いで「仕事の内容の割に賃金が低い」が38.3%となっており、介護現場においても同様の課題を抱えている<sup>11</sup>。

また福祉業界に就職する前に、収入を伴う仕事をしていたかを尋ねたものでは、「前職あり」が75.7%で、そのうち同じ介護業界からではなく、他産業（介護・福祉・医療関係以外の仕事）からの人材流入の方が多い結果になっている。前職を辞めた理由としては、職場の人間関係に次いで、結婚・出産・妊娠・育児、収入が少なかったための順になっている。介護業界に転職した理由としては、未経験・無資格でも比較的簡単に正社員の求人が見つけられるという背景がある<sup>12</sup>。

介護業界の人手不足を解消するために、介護職のイメージアップが求められるという観点から、東京では福祉の仕事のイメージアップキャンペーンとして、多くの方に福祉の仕事に興味・関心を持ってもらえるように、サンリオのキャラクターであるハローキティを「TOKYO福祉のお仕事アンバサダー」に任命し、様々なPR活動を行い福祉の仕事の魅力ややりがいを発信するような取り組みも近年は行われたりしている<sup>13</sup>。

ここまで介護人材を中心とする福祉業界の動向に関する先行研究を見てきたが、医療や福祉を専門としない人文系の短期大学生を対象にした社会福祉およびこの分野に対する就職に関する意識調査は、これまでに大分県では実施されていない。よってアンケート調査を通じて、これらについて明らかにすることにした。

<sup>9</sup> マイナビ介護職（2022）「『大分県』介護職の給料相場を男女別・サービス内容別に解説」（<https://kaigoshoku.mynavi.jp/support/column/salary-oita/>）。

<sup>10</sup> 井口克郎(2008)「介護現場の「人手不足」と若者の介護への就職意識」『人間社会環境研究』15巻、金沢大学、p.80。

<sup>11</sup> 介護労働安定センター（2021）、前掲書、p.11。

<sup>12</sup> 介護労働安定センター（2021）、前掲書、p.11。

<sup>13</sup> 東京都福祉保健局（2018）、「福祉の仕事イメージアップキャンペーン」（<https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/kiban/fukushijinza/imageup.html>）。

#### 4. 調査方法

2023年3月2日に大分県福祉人材センターを訪問し、大分県の福祉業界の現状について、総務・人材部福祉人材班の統括専門員の方を対象にインタビューを行った。また同年6月23日に大分市にある社会福祉法人博愛会の第一博愛寮を訪問し、施設長にインタビュー調査を実施するとともに、職員からも施設の勤務内容等についてヒアリング調査を行った。

これら事前調査の結果を踏まえたうえでアンケート調査票を作成し、大分県立芸術文化短期大学で地域社会特講Ⅰを受講している学生を対象に、2023年7月4日にアンケートを実施した。この講義には主に情報コミュニケーション学科の1年生と、国際総合科学科、音楽科、美術科の学生が受講していた。情報コミュニケーション学科の2年生については7月3日から28日の期間に研究室ごとにアンケート調査への回答を依頼して回収した。

回収できたアンケートは合計で234部であり、有効回答率は、99.2%であった。学科別では、情報コミュニケーション学科が79.1%、国際総合学科が17.0%、音楽科が1.3%、美術科が2.6%であった。質問内容は祖父母との同居経験の有無、家族・親戚が福祉に関わる仕事に従事しているか否か、高齢者福祉施設への訪問経験の有無、高齢者福祉施設への訪問時期、高齢者福祉施設を訪問した目的、高齢者福祉施設を訪問した後の印象、社会福祉への興味・関心があるか、福祉業界は就職先の選択肢に入るか否か、過去の記憶に残っているセミナー、学校で福祉の理解を深めるためにあった方がよい工夫、福祉業界のポジティブイメージとネガティブイメージ、情報発信で改善すべき点、福祉業界全般で改善すべき点、日頃から使うSNS媒体、就職先選択時の重要視ポイント、就職の際に誰からの意見を重要するか、企業情報をどの媒体を通じて得ているか、外国人労働者の福祉業界での就労に関する賛否、サービスラーニングでの高齢者支援に参加したいか、について聞いた。アンケートの詳細については末尾の【付録】に収録した。以下、抜粋した形で調査結果を見ていくことにする。

#### 5. 調査結果

最初に基本情報についてであるが、性別については「男性」が15%、「女性」が85%であった。次に祖父母との同居経験の有無について、「同居の経験がある」は31%、「同居の経験がない」は69%であった。家族・親戚が福祉にかかわる仕事に従事しているか、という質問では、「従事している」は29%、「従事していない」は71%であった。これまで高齢者福祉施設へ訪問したことがあるかという質問では、「ある」が70%、「ない」が30%であった。高齢者福祉施設へ訪問について「ある」と回答した学生にのみ訪問時期を尋ねたところ、「未就学児」が8%、「小学生」が41%、「中学生」が32%、「高校生」が15%、「大学生」が4%であった。高齢者福祉施設を訪問した目的については、「職場体験」が14%、「施設見学」が18%、「レクリエーションへの参加」が18%、「施設を利用している親族を訪問」が22%、「施設での発表」が14%、「就職活動」が1%であった。高齢者福祉施設を訪問した後、どのような印象を抱いたかという質問では、「楽しかった」が39%、「なんとなく楽しかった」が51%、「なんとなく楽しくなかった」が5%、「楽しくなかった」が5%という結果となった。

次に社会福祉への関心の有無を質問した。男性・女性ともに「ある程度関心がある」と答えた者が最も多く、全体で54%であった。また「全く関心がない」と答えた者も全体で

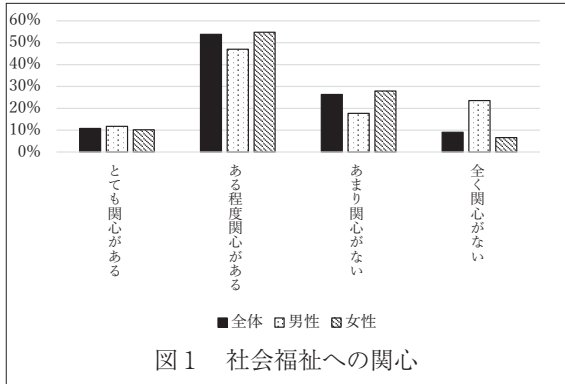


図1 社会福祉への関心

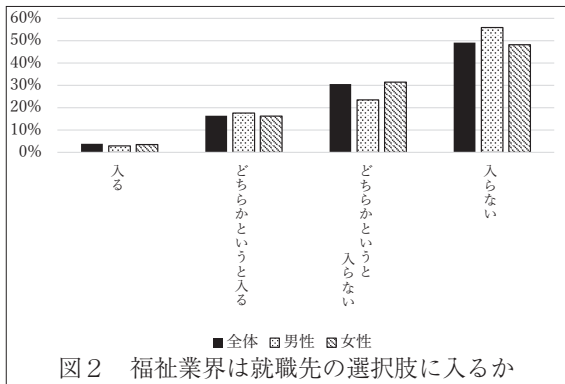


図2 福祉業界は就職先の選択肢に入るか

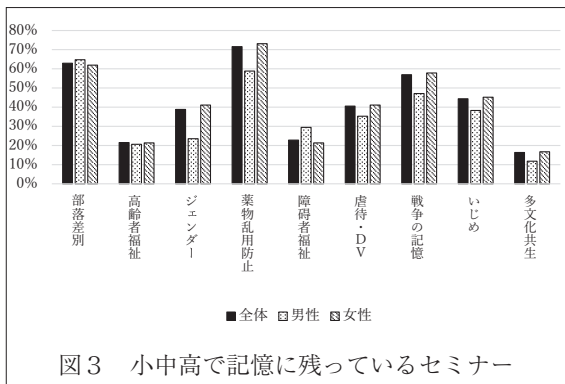


図3 小中高で記憶に残っているセミナー

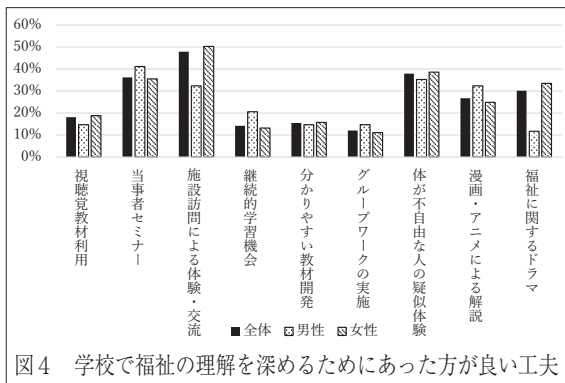


図4 学校で福祉の理解を深めるためにあった方がよい工夫

は1割程度存在し、男性は24%、女性は7%と、男性の方がより福祉に関心を有していない傾向にあった（図1参照）。

福祉業界は就職先の選択肢に入るかという質問では、「入らない」「どちらかといえば入らない」と回答した者が合わせて約80%と高い数値であった。この問いに関して男性・女性では大きな差はなかった。全体的に福祉業界を就職先の選択肢に入れている学生が少ないことが確認できる。ただ一方で「入る」「どちらかというに入ると」と回答した者も2割程度は存在している（図2参照）。

小学校・中学校・高校で記憶に残っているセミナーについての質問を行ったところ、男女で目立った差はなく、「薬物乱用防止」「部落差別」「戦争の記憶」の順になった。高齢者福祉や障がい者福祉といった福祉に関するセミナーについては、記憶に残っていると回答している者が少なく、特に初等・中等教育において福祉教育があまり充実していないことが、この結果からも読み取れる（図3参照）。

学校で福祉の理解を深めるためにあった方がよい工夫について聞いた。その結果、全体では「施設訪問による体験・交流」が48%と最も多く、「体が不自由な人の疑似体験」が38%、「当事者セミナー」が36%の順であった。男性では「当事者によるセミナー」が41%と最も多く、「体が不自由な人の疑似体験」が35%、「漫画・アニメによる解説」が32%であった。女性は「施設訪問による体験・交流」が50%と最も多く、次いで「体が不自由な人の疑似体験」が39%、「当事者セミナー」が36%という結果となった。男女の回答に差がみられたのは「福祉に関するドラマ」で、女性が男性よりも22%高く、



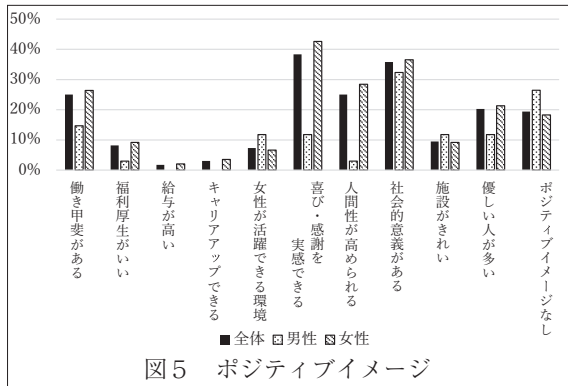


図5 ポジティブイメージ

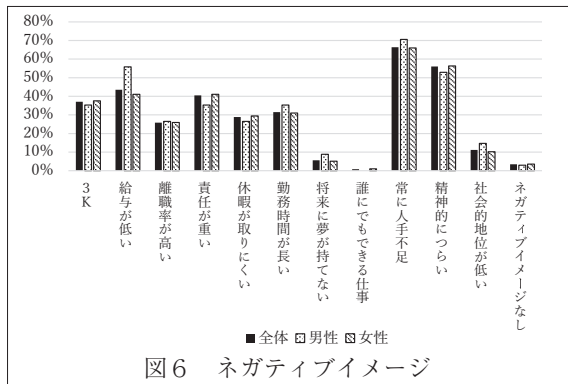


図6 ネガティブイメージ

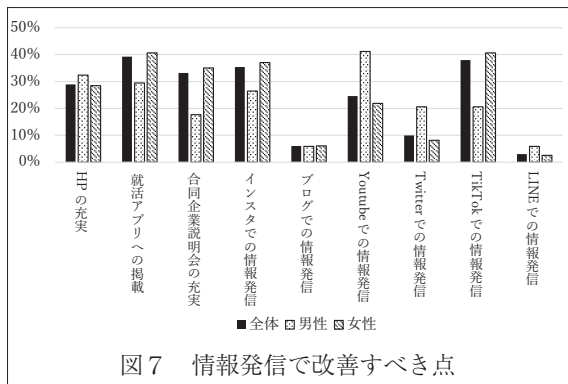


図7 情報発信で改善すべき点

また「施設訪問による体験・交流」も女性のほうが18%高い回答率であった(図4参照)。

福祉職についてどのようなポジティブイメージを持っているかという質問を行った。その結果、全体では38%が「喜び・感謝を実感できる」と回答しており、次いで「社会的意義がある」と回答した者が35%、「働き甲斐がある」と回答した者が25%であった。男女別では、女性は全体と同様「喜び・感謝を実感できる」が43%と最も多く、次いで「社会的意義がある」と回答した者が37%であった。しかし、男性の回答を見ると「社会的意義がある」が32%で最も多かったが、次に多い回答は「ポジティブイメージはない」であった。男女差を見てみると、「喜び・感謝を実感できる」では女性は男性よりも31%も高く、「人間性が高められる」についても女性のほうが25%ほど高い結果であった(図5参照)。

あなたは福祉職について、どのようなネガティブイメージを持っていますかという質問では、全体では「常に人手不足」が66%、「精神的につらい」が56%、「給与が低い」が44%の順であった。男女別でも、大きな差異はなく「常に人手不足」「精神的につらい」「給与が低い」の順で回答が多かった。前述の質問では「ポジティブイメージは

ない」と回答した者が多かったことに対し、この質問では「ネガティブイメージはない」と回答した者は3%と非常に少なく、学生の多くは福祉職に前向きな印象を抱いていないことが分かる結果となった(図6参照)。

学生が福祉に興味・関心を抱くために、どのような媒体で情報発信の改善を行っていけば良いかを聞いた。全体としては「ブログでの情報発信」「X(旧Twitter)での情報発信」「LINEでの情報発信」はあまり改善が期待されておらず、「インスタでの情報発信」や「TikTokでの情報発信」で改善を行うことが望ましいという回答が多い結果になった。SNS媒体を除いた情報発信では「HPの充実」「就活アプリへの掲載」「合同企業説明会の充実」はどれも回答者が多く、改善を通じて興味・関心を引くことができると考える傾

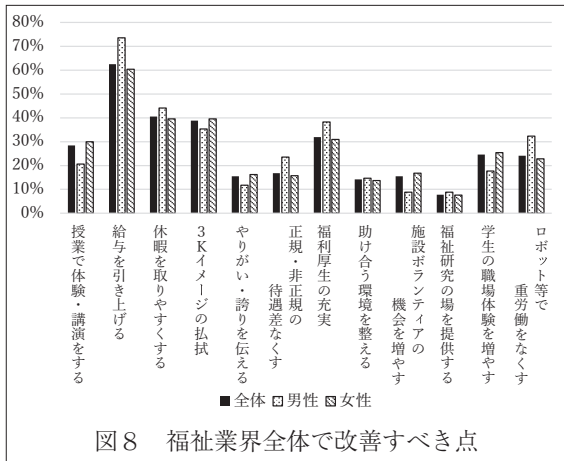


図8 福祉業界全体で改善すべき点

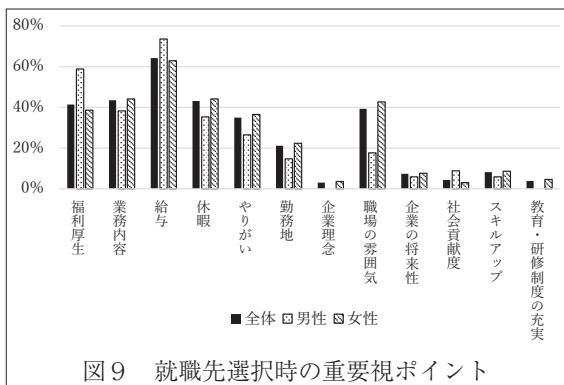


図9 就職先選択時の重要視ポイント

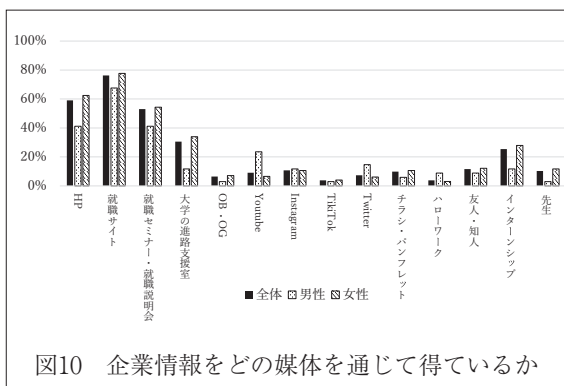


図10 企業情報をどの媒体を通じて得ているか

向が確認できる。男女差を見てみると「TikTokでの情報発信」は女性のほうが男性よりも19%ほど高く、「YouTubeでの情報発信」は男性のほうが女性よりも19%ほど高かった。また「合同企業説明会の充実」は女性のほうが男性よりも回答率が高く、17%の差があった。(図7参照)。

続いて福祉業界全体で改善すべき点について質問を行った。全体では、「給与を引き上げる」と回答した者が63%と最も多い結果となった。次いで「休暇を取りやすくする」が41%、「3Kイメージの払拭」が39%、「福利厚生の充実」が32%であった。男女差で見ると、男性は「給与を引き上げる」が74%と最も多く、「休暇を取りやすくする」が44%、「福利厚生の充実」が38%の順であった。女性も「給与を引き上げる」が60%と最も多く、「休暇を取りやすくする」と「3Kイメージの払拭」が40%と続いている。大きな男女差は見られなかったが、「ロボット等で重労働をなくす」は、男性の方が女性よりも9%高かった。全体を見ても、「やりがい・誇りを伝える」や「助け合う環境を整える」「福祉研究の場を提供する」は学生にとってあまり改善すべき点としては認識されていない結果となった(図8参照)。

学生の就職選択時の重要視ポイントについて聞いた。男女ともに「給与」の回答率が高く、男性は「給与」の次

に「福利厚生」、女性は「業務内容」「休暇」を重要視している。反対に、男女ともに「企業理念」や「教育・研究制度の充実」「社会貢献度」は就職先を選択する際にはあまり重視されていない。男女差で見ると、「職場の雰囲気」が女性のほうが男性よりも25%も回答率が高く、「福利厚生」は男性のほうが20%ほど高い結果となった(図9参照)。

企業情報をどの媒体を通じて得ているかという質問では、全体的にマイナビやリクナビといった「就職サイト」が76%と最も多く、次いで「HP」が59%、「就職セミナー・就職説明会」が53%という結果であった。学生は「TikTok」「Twitter」「Instagram」「YouTube」

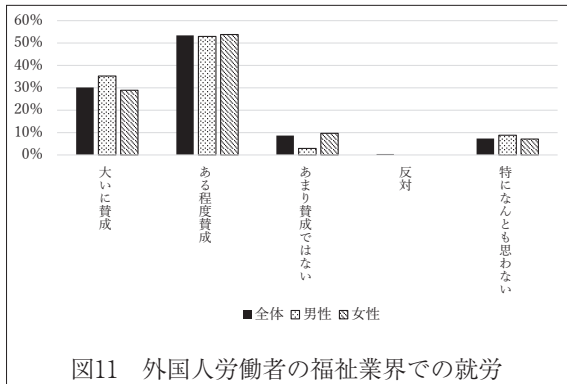


図11 外国人労働者の福祉業界での就労

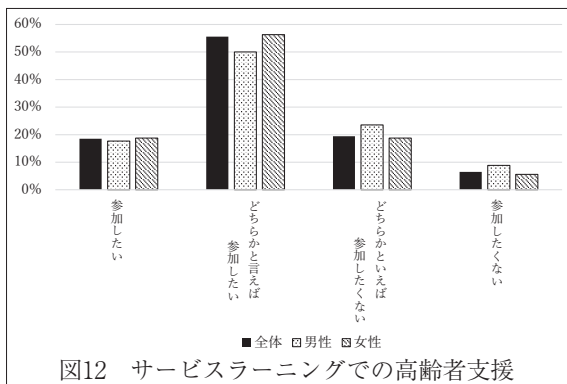


図12 サービスラーニングでの高齢者支援

といったSNSやプラットフォームを、企業情報を得るためにはあまり活用しておらず、また「OB・OG」や「ハローワーク」から企業情報を得ている者も少ない。男女別でみると、最も差が大きいのは「大学の進路支援室」で、女性の方が男性よりも22%高く、「HP」も女性の方が21%高く、「YouTube」については男性の方が17%高い結果となった。(図10参照)。

外国人労働者の福祉業界での就労についてどう思うかという質問については、「ある程度賛成」53%、「賛成」が30%と、外国人が福祉業界で働くことに対する賛成意見が8割を超える結果となった。「あまり賛成ではない」が9%、「特に何とも思わない」が7%で、「反対」と回答した学生はほぼいない結果であった(図11参照)。

大分県立芸術文化短期大学情報コミュニケーション学科で必修科目となっているサービスラーニング(地域

貢献を行う正規科目)として、高齢者を支援する活動があれば参加したいかどうかを質問した。こちらも男女に大きな差はなく、「参加したい」が19%、「どちらかといえば参加したい」が56%、「どちらかといえば参加したくない」が19%、「参加したくない」が6%という結果となった。この結果から、大学において地域貢献活動の一環として高齢者支援をすることに意欲的な学生が多く存在することが分かった(図12参照)。

## 6. 考察

ここでは上述の結果を全体と男女別にまとめながら考察を行うことにする。学生の社会福祉への関心度については、「ある程度関心がある」と回答した者が男性・女性とも最多で5割程度、存在する。一方で「全く関心がない」と回答した人は、女性は1割にも満たない反面、男性は2割強、存在した。社会福祉に対して全く関心のない学生は男子の方が多い結果であった。

福祉業界は就職の選択肢に入るかという点では「入らない」と回答した学生が男女ともに最多で5割程度であった。男女とも「入る」「どちらかといえば入る」と回答し、福祉業界への就職先について選択肢の1つとして考えている者は、全体の約2割となっている。今回のアンケートが医療・福祉系ではない、主として人文系の短期大学の学生を対象に行ったものであると考えると、約2割という割合は少なくないと考えても良いかもしれない。

これまでに小学校・中学校・高校で受けたセミナーのなかで記憶に残っているものについては、全体の約7割が「薬物乱用防止」、全体の約6割が「部落差別」が記憶に残っている



と回答している。他方で「高齢者福祉」は男女ともに約2割であり、「障がい者福祉」は男性が約3割、女性が約2割と低い回答率であった。これは学校における総合学習の時間で、社会福祉を取り扱っている学校が少ないことが影響しているものと推測される。

学校で福祉に対して関心を高めるためにあった方が良い工夫については、全体の5割弱が「施設訪問による交流・体験」で最多であった。「福祉に関するドラマ」については、男性が1割に対し、女性が3割強と大きな差が見られ、特に女性の関心を惹きつけるための方法としてドラマは潜在的な可能性があるものと思われる。全体的に「施設訪問による交流・体験」「当事者セミナー」「体が不自由な人の疑似体験」が高かったことから、福祉を取り扱う座学だけでなく、学生が参加する体験型の教育が、関心を高めるためには有効であると思われる。

学生が福祉業界に抱いているポジティブイメージでは、全体では「喜び・感謝を実感できる」が4割弱で最多であり、男女別でみると、男性は「社会的意義がある」が約3割、女性は「喜び・感謝を実感できる」が4割強で最多であった。男性の4分の1が「ポジティブイメージはない」と回答している。「給与が高い」「キャリアアップできる」「福利厚生がいい」と回答した人はどれも1割に満たない結果であり、心理的側面や社会的価値観を前向きに捉えている者が多い。

ネガティブイメージについては、男女ともに「常に人手不足」と回答した人が7割弱で最多であった。次いで「精神的につらい」が6割弱、「給与が低い」が4割強の順であった。「ネガティブイメージはない」と回答した者は3%と少なく、多くの学生は福祉業界で働くことに対し、少なからず何らかのネガティブなイメージを抱いている結果となっている。学生は福祉業界で働くことによって受ける待遇や環境、仕事を通じた自分の将来に対して強い不安を抱いているため、福祉業界を就職先として視野に入れる者が少なくなっているものと推測される。

学生に福祉職に興味・関心を持ってもらうためにどのような情報発信で改善すべきか聞いた質問では、「就活アプリへの掲載」が4割で最多であり、次いで「TikTokでの情報発信」が4割弱、「Instagramでの情報発信」が3割強であった。男性はYouTubeでの情報発信が最も有効的だと考えており、女性にはTikTokでの情報発信も有効であると考えている。全体的に文字情報での発信だけでなく、動画での情報発信についても学生は望んでいるものと推測される。また就職活動時には就職アプリ（リクナビやマイナビ）を利用している学生が多くいることから、就職アプリへの掲載も有効であると考えられる。

福祉業界全体でどのような改善があったら福祉業界への就職を視野に入れるかを質問したところ「給与を引き上げる」が男性で7割強、女性で6割とともに最多であった。次いで「休暇を取りやすくする」、「3Kイメージの払拭」が男女ともに4割という結果であった。特に福祉＝低賃金という印象が強く根付いていることが想定され、施設独自の手当制度などを積極的にアピールし、給与面を含めて労働環境が満足すべきものであることをアピールすることが求められる。

就職選択時で重要視している項目では、男性の7割強、女性の6割強が「給与」となっており最多であった。次いで男性の約6割が「福利厚生」、女性の4割強が「業務内容」、「休暇」、「職場の雰囲気」という結果となった。女性の4割強が「職場の雰囲気」を重要視することに対し、男性は2割弱と低かった。前の質問で全体の6割強の学生が、給与面が改

善を求めていることから、施設側は業務内容に応じた給与の見直しと、働きやすい環境と支援制度について丁寧に詳しく説明することが求められている。

企業情報の入手手段では、「就職サイト」が男性で7割弱、女性で8割弱と最多であった。次いで全体では「HP」が約6割、「就職セミナー・就職説明会」が5割強であった。「YouTube」「TikTok」「Instagram」「Twitter」はどれも1割にも満たず、SNS媒体で企業情報を得ている学生は少ないことが分かる。これは現段階で施設側がSNSを使って積極的に情報発信ができていない、または学生に届いていないことと表裏の関係にあると考えられる。今後は、若者に向けた特にSNSを使った情報発信の強化も求められるであろう。

福祉業界の人材不足が懸念されるなか、外国人労働者が福祉職で就労することについて

表1 短期大学生の社会福祉に関連する意識の差

	全 体	男 性	女 性
社会福祉への関心	ある程度関心がある人が5割強で最多	全く関心がないが2割強	全く関心がないが1割弱
福祉業界は就職の選択肢に入るか	入らない、どちらかといえば入らないで約8割	入る、どちらかといえば入るが約2割	入る、どちらかといえば入るが約2割
過去の記憶に残っているセミナー	薬物乱用防止が約7割、部落差別が約6割	高齢者福祉は約2割、障がい者福祉は約3割	高齢者福祉は約2割、障がい者福祉は約2割
学校で福祉の関心を高めるための工夫	施設訪問による交流・体験が5割弱で最多	当事者セミナーが約4割、体が不自由な人の疑似体験が約3割強	施設訪問による交流・体験が5割、体が不自由な人の疑似体験が約4割、福祉に関するドラマが3割強
ポジティブイメージ	喜び・感謝を実感できるが4割弱で最多	社会的意義があるが約3割、ポジティブイメージはないが3割弱	喜び・感謝を実感できるが4割強、社会的意義があるが4割弱、人間性が高められるが3割弱
ネガティブイメージ	常に人手不足が7割弱で最多、精神的につらいが6割弱	常に人手不足が7割、給与が低いのが6割弱	常に人手不足7割弱、給与が低いのが4割
情報発信で改善すべき点	就活アプリへの掲載が約4割	YouTubeでの情報発信が約4割	就活アプリへの掲載が約4割、TikTokでの情報発信が約4割
福祉業界全体で改善すべき点	給与を引き上げるのが6割強で最多	給与を引き上げるのが7割強	給与を引き上げるのが6割
就職先選択時の重要視ポイント	給与が6割強	給与が7割強、福利厚生が約6割	給与が6割強、業務内容、休暇、職場の雰囲気それぞれ4割強
企業情報をどの媒体を通じて得ているか	就職サイトが8割弱、HPが約6割、就職セミナー・就職説明会が5割強	就職サイトが7割弱、就職セミナー・就職説明会が5割強	就職サイトが8割弱、HPが約6割、大学の進路支援室が3割強
外国人労働者の福祉業界の就労	ある程度賛成が5割強、大いに賛成が3割	ある程度賛成が約5割、大いに賛成が3割強	ある程度賛成が約5割、大いに賛成が3割弱
サービスラーニングでの高齢者支援	参加したいが約2割、どちらかと言えば参加したいが5割	参加したいが2割弱、どちらかと言えば参加したいが5割	参加したいが2割弱、どちらかと言えば参加したいが5割強

は、男女ともに全体で8割強が賛成をしている。この結果から、多くの学生は、日本人の手で福祉の業務が担えないのであれば、外国人労働者に委ねることについて肯定的に考えている。今後は異文化理解に加え、如何にして外国人とともに手を携え社会を維持・存続させるのかといったことの教育も求められるであろう。

サービ斯拉ーニングによる高齢者支援についても、全体の7割を超える学生が、学校で高齢者と関わる社会貢献活動の機会があれば意欲的に参加し学びたいと思っている。大学ではこれまで以上に同活動による機会を増やし、高齢者と交流を深めることで、学生の福祉に対する興味・関心・理解の増進を図るべきであろう。

以上、これまでに述べてきた考察結果をまとめたのが、表1である。こちらに示したように、全体の傾向には特徴あり、且つ男女では社会福祉に対する意識に違いがあることが分かる。

## 7. 結論

本研究では、主に人文系の短期大学生を対象にして、社会福祉および福祉に関連する就職について意識調査を実施した。この調査により短期大学生の意識ならびに男女差が傾向として明らかになった。今回の調査結果から、福祉施設側と学校側に提言を述べることにする。

まず福祉事業者に対しであるが、給与面、人材不足、精神的なつらさ、勤務時間の長さなどに対して不安を持っている学生が多いことから、給与や手当の充実、人材不足を補う取り組み、メンタルヘルスの支援、休暇取得制度や勤務体制の説明に努めることが、まずは欠かせないであろう。さらに社会的に意義があり、やりがいがある仕事であること、人間的な成長ができる職場であることを訴えることが望まれる。加えてできるだけ施設を訪問してもらい、実際に現場を体験してもらうような機会を積極的に設けることが欠かせないであろう。また学生は情報を収集する際に、従来の就職アプリ、合同企業説明会、HPからの情報収集に加えて、インスタグラムやTikTokや、Youtubeなどの情報媒体を通じた情報発信の改善を求めている。従来の文字情報を中心とした施設案内に加え、職員の働いている姿、イベントなどを画像や動画を通じて積極的に発信していくことも求められる。このような重層的な情報提供が、いまの時代の若者には求められるものと考えられる。また今回の調査では、男性の対象者数が少なかったとはいえ、男女の違いも明らかになっている。差異の顕著な点については、それぞれに有効な広報や重点的な説明を行うことも必要である。

教育現場に対しては、中等教育では総合型学習の時間に社会福祉について理解を深めるための内容をさらに取り入れることが求められる。また大学では、講義やセミナーなどにおいて福祉従事者の方を招聘して現場の声を聞いてもらうよう工夫を講じたり、実際に施設を訪問したりするような活動、高齢者や障がい者の方の疑似体験をするような機会も効果的であると考えられることから前向きに取り入れていくべきであろう。大分県立芸術文化短期大学が全学的に取り組んでいるサービ斯拉ーニング（地域貢献活動）を通じて、例えば高齢者の健康づくりの支援や、障がい者の方を側面支援するような活動も、今後は福祉に対する理解増進と関心を持ってもらうための機会創出という意味では、取り組みを強化すべきである。このような教育面での取り組みと改善を通じて、若者の福祉に対するイ

メージを少しずつ変えていくことが望まれる。

### 謝辞

本研究は、2023年度に綾部研究室で取り組んだ調査の結果を、大幅に加筆・修正したものである。アンケート調査の準備・実施では久米田海優氏、首藤優子氏、津末まゆみ氏、馬場瑞生氏に多大なる支援を頂いた。ここに感謝を致しますとともに、深くお礼を申し上げます

### 【参考文献】

- 井口克郎(2008)「介護現場の「人手不足」と若者の介護への就職意識」『人間社会環境研究』15巻、金沢大学。
- 大分県 (2023)「大分県内の高齢者の状況」(<https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2213031.pdf>)。
- 大分県社会福祉協議会福祉人材センター (2021)「福祉の仕事を目指す学生の意識調査報告書」大分県社会福祉協議会。
- 大分県社会福祉協議会福祉人材センター (2021)「令和2年度社会福祉施設における人材確保に関する調査報告書」大分県社会福祉協議会。
- 大分県社会福祉協議会施設団体支援部 (2023)「令和4年度大分県外国人介護人材受入状況調査結果について」大分県社会福祉協議会。
- 介護労働安定センター (2024)「令和5年度『介護労働実態調査』結果の概要について」([https://www.kaigo-center.or.jp/content/files/report/2023\\_jittai\\_chousagaiyou.pdf](https://www.kaigo-center.or.jp/content/files/report/2023_jittai_chousagaiyou.pdf))。
- 厚生労働省編 (2022)「令和4年度厚生労働白書」日経印刷。
- 東京都福祉保健局 (2018)「福祉の仕事イメージアップキャンペーン」(<https://www.fukushi.metro.tokyo.lg.jp/kiban/fukushijinzaizai/imageup.html>)。
- マイナビ介護職 (2022)「『大分県』介護職の給料相場を男女別・サービス内容別に解説」(<https://kaigoshoku.mynavi.jp/support/column/salary-oita/>)。

## 福祉業界に対する大学生の意識調査

本アンケート調査は、大分県福祉人材センターから依頼を受けて、総研研究室が実施する「福祉業界に対する大学生の意識調査」です。本調査は無記名方式となっており、本人が特定されることはありません。また本調査は芸術研究の範囲内においてのみ、利用を限定するものです。

各質問の選択肢の前のボックスに「✓」をご記入ください。「その他」を選んだ場合には、後ろのカッコに必要な事項を記載、お書きください。

## 1. 基本情報に関する質問

① あなたの今の学年を以下から選択してください。(1つ選択)

1) 1年生	2) 2年生
3) その他	

② あなたの性別を以下から選択してください。(1つ選択)

1) 男性	2) 女性
3) その他	

③ あなたの所属する学科を以下から選択してください。専攻科の学生は5)「専攻科」を選んでください。(1つ選択)

1) 情報コミュニケーション	2) 国際総合
3) 音楽	4) 美術
5) 専攻科	

④ あなたが高校時代・所屬していた学科を、以下から選択してください。(1つ選択)

1) 普通科	2) 専門科(商業)
3) 専門科(工業・農業・水産)	4) 専門科(看護・家庭)
5) 専門科(福祉)	6) 総合学科
7) その他の学科	

⑤ あなたは祖父・祖母と同居していますか。もしくはしたことがありますか。以下から選択してください。(1つ選択)

1) はい	2) いいえ
-------	--------

⑥ あなたの家族または身近な親戚で福祉(高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉等)に関わる仕事に従事している方はいますか。(1つ選択)

1) はい	2) いいえ
-------	--------

(裏面に続く)

⑦ あなたは通所に高齢者福祉施設(老人ホーム・デイサービス等)に行ったことがありますか。(1つ選択)

1) はい	2) いいえ
-------	--------

⑧ 上記1～⑥の質問で「はい」と選択した方に質問です。高齢者福祉施設に訪問したのはいつ頃ですか。(該当するものすべて選択)

1) 未就学児	2) 小学生
3) 中学生	4) 高校生
5) 大学生	

⑨ 上記1～⑥の質問で「はい」と選択した方に質問です。高齢者福祉施設を訪問した際の目的は何ですか。(該当するものすべて選択)

1) 職場の体験	2) 施設の見学
3) レクリエーションへの参加	4) 利用している福祉を訪問
5) 施設での発表会の実施	6) 就職活動での訪問
5) 地域イベント(いざ〜等)	8) その他( )

⑩ 上記1～⑥の質問で「はい」と選択した方に質問です。高齢者福祉施設を訪問した後の印象はどのようなものでしたか。(1つ選択)

1) 楽しかった	2) なんとなく楽しかった
3) なんとなく楽しくなかった	4) 楽しくなかった

## 2. 社会福祉に対する意識調査

① あなたは社会福祉(高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉等)について興味・関心はどの程度ありますか。(1つ選択)

1) とても関心がある	2) ある程度関心がある
3) あまり関心がない	4) 全く関心がない

② 上記2～④で「とても関心がある」「ある程度関心がある」を選択した方に質問です。興味・関心を持つきっかけは何か。(最大3つ選択可)

1) 祖父と同居しているから	2) 就職先として選択したから
3) 身近に福祉の分野で働く人から	4) 講義・セミナーを受講したから
5) イベントやボランティアに参加したから	6) ニュースや新聞で取り上げられているから
7) 自分の将来に必要なから	8) 困った人を助けたいから
9) 身近に福祉支援を必要としている人から	10) いずれ福祉が必要になるかもしれないから
11) その他( )	



④ あなたは福祉業界（高齢者福祉・障害者福祉・児童福祉等）は自分の就職先として選択せに入りませんか。（1つ選択）

1) 入る	2) どちらかといえど入る
3) どちらかといえど入らない	4) 入らない

④ あなたは小学校・中学校・高校で受講したセミナーで、内容について記憶に残っているものは以下のどれですか。（該当するものすべて選択）

1) 習熟差別	2) 高齢者福祉（含む認知症）
3) ジェンダー	4) 薬物乱用防止
5) 障害者福祉	6) 虐待・DV
7) 戦争の記憶	8) いじめ
9) 多文化共生	10) その他（ ）

⑤ あなたは学校で福祉の内容をより理解するためには、どのような工夫があったらよいと思いますか。（最大3つまで回答可）

1) 視覚教材の利用	2) 当事者によるセミナー
3) 施設訪問などの体験や交流	4) 継続的な学習機会
5) 分かりやすい教材開発	6) グループワークの実施
7) 体の不自由な人の疑似体験	8) 漫画やアニメによる解説（含むSNS発信）
9) 福祉を題材としたドラマ	10) その他（ ）

⑥ あなたは福祉業界に就いてどのようなポジティブなイメージを持っていますか。（該当するものすべて選択）持っていない人は「ポジティブなイメージはない」を選択して下さい。

1) 働き甲斐がある	2) 福利厚生が良い
3) 給与が高い	4) キャリアアップができる
5) 女性が活躍できる環境	6) 喜びや感謝を表現できる
7) 人間性が活かされる	8) 社会的意義がある
9) 施設がきれい	10) 優しい人が多い
11) ポジティブなイメージはない	12) その他（ ）

⑦ あなたは福祉業界に就いてどのようなネガティブなイメージを持っていますか。（該当するものすべて選択）持っていない人は「ネガティブなイメージはない」を選択して下さい。

1) 3K（きつい・汚い・危険）	2) 給与が低い
3) 離職率が高い	4) 責任が重すぎる
5) 休暇が取りにくい	6) 勤務時間が長い
7) 将来に夢が持てない	8) 語彙でもできる仕事
9) 職に人不足	10) 精神がつかない
11) 社会的地位が低い	12) ネガティブなイメージはない
13) その他（ ）	

（裏面に続く）

⑧ あなたは福祉業界の情報発信においてどのような改善をすれば、より多くの若者が関心を持つようになると思いますか。（最大3つまで回答可）

1) ホームページの充実	2) 動画アプリへの掲載
3) 合同企業説明会の充実	4) Instagramでの情報発信
5) ブログでの情報発信	6) YouTubeでの情報発信
7) Twitterでの情報発信	8) TikTokでの情報発信
9) LINEでの情報発信	10) その他（ ）

⑨ あなたは福祉業界全般においてどのような点が改善されれば、より多くの若者が関心を持つようになると思いますか。（該当するものすべて選択）

1) 学校の授業で体験・講演する	2) 給与を引き上げる
3) 休暇を取りやすくする	4) 3K（きつい・汚い・危険）のイメージを払拭する
5) やりがい・やりがいを積極的に伝える	6) 非正規職員と正規職員の待遇差をなくす
7) 福利厚生を充実させる	8) 皆で助け合う環境を整える
9) 福祉施設でのボランティアの機会を増やす	10) 福祉に関する研究の場を提供する
11) 学生の職場体験を増やす	12) ロボット等で重労働を減らす
13) その他（ ）	

⑩ あなたは日頃からよく使うSNS媒体はありますか。（該当するものすべて選択）

1) Instagram	2) Twitter
3) YouTube	4) TikTok
5) LINE	6) Facebook
7) その他（ ）	

⑪ あなたは就職先を選ぶ際、何を重要視していますか。（最大3つ選択可）

1) 福利厚生	2) 業務内容
3) 給与	4) 休暇
5) やりがい	6) 勤務地
7) 企業理念	8) 職場の雰囲気
9) 企業の将来性	10) 社会への貢献度
11) スキルアップ	12) 教育・研修制度の充実
13) その他（ ）	

（次ページに続く）

⑫ あなたは就職する際に、誰からの意見を重要視しますか。誰の意見も聞かないと思うひとは、「自分自身で決める」を選んで下さい。(最大2つ選択可)

1) 親	2) 先生
3) 友人・知人	4) 祖父母
5) 兄弟・姉妹	6) 恋人
7) 自分自身で決める	8) その他 (            )

⑬ あなたは企業の情報(どの媒体・機会を通じて得ていますか。(該当するものすべて選択)

1) ホームページ	2) 就職サイト(リクナビ・マイナビ等)
3) 就職セミナー・就職説明会	4) 大学の連絡先(教務室)
5) OB・OG	6) Youtube
7) Instagram	8) TikTok
9) Twitter	10) チラシ・パンフレット
11) ハローワーク	12) 友人・知人
13) インタベンシブ	14) 先生
15) その他 (            )	

⑭ あなたは外国人労働者が今後、福祉業界において増えることについてどのように考えていますか。(1つ選択)

1) 大いに賛成	2) ある程度、賛成
3) あまり賛成でない	4) 反対
5) 特になんとも思わない	

⑮ あなたはサービスラーニングとして高齢者を支援するボランティアがあった場合、参加してみたいと思いますか。(1つ選択)

1) 参加したい	2) どちらかといえば参加したい
3) どちらかといえば参加したくない	4) 参加したくない

以上、アンケート調査にご協力をいただき、誠にありがとうございました。

